

令和2年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	北海道大学	タイプ	A②
事 業 名	アフリカと日本の架け橋となる次世代の人材を育成する国際獣医学・保全医学教育プログラム ～ザンビア - 北大の頭脳循環成果を基盤として～		
海外の相手大学	ザンビア大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、貴学とザンビア大学の交流において、特に獣医学部との長年にわたる連携を基に、獣医学研究院を中心として現代の地球規模の主要課題である One Health をテーマとした「保全医学」分野での交流を図ろうとするプログラムであり、全学的かつ、領域横断的な取組による教育プログラムの計画として高く評価できる。日本国内では実践的な教育が実施不可能な感染症や、環境・生態系を含む保全医学分野についてアドバンスト教育を実施しようとする点においても、意欲的なプログラムとなっている。

育成する人材像も、One Health に貢献できる研究者と教育者に分けて明確に提示されており、それに向けた客観性と透明性の高い評価体制も整えられている。また、貴学が設置するアフリカ・ルサカオフィスをはじめとした支援体制も十分に整えられており、計画の実現性は極めて高い。さらに、新型コロナウイルス感染症という、人獣共通感染症の拡大の折、獣医学・保全医学に焦点を当てた取組は、時宜を得た重要な取組として評価できる。

一方で、文系の学生も参加可能となっていることは人材育成の点でも、事業内容の多角的な充実という意味でも意欲的ではあるが、獣医学及び保全医学に直接関連性のない学部・研究科の学生がどのようにプログラムに関わるのかが明示されていない。派遣に伴い実施する事前事後研修における参加者同士の交流も含め、領域横断的な教育プログラムのモデルとなるような事業内容として整備されることが望まれる。また、海外相手大学がこれまでも交流を続けてきたザンビア大学に限られているが、アフリカ諸国の高等教育機関等との連携ネットワークづくりを先導してきた貴学の取組は、当該地域におけるアフリカ諸国との交流活動の中でも達成度の高いものとなっているだけに、将来的には、ザンビア以外の国々へも交流を拡げ、保全医学という大きな枠組みに相応しい地域的広がりを目指すことに期待する。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国・地域との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。